

平成18年5月12日

平成18年3月期 決算の概要について

シロキ工業株式会社

(輸送用機器 東証、名証第1部上場)

(*百万円未満以下切り捨てております)

1、平成18年3月期連結決算の概要

■3月31日現在の当社の連結子会社数は国内4社、海外5社の計9社で、他に国内に持分法適用の関連会社が3社であります。前期比で連結子会社が国内で2社、海外で2社減少いたしました。これは、国内ではシロキ商事株式会社がシロキ運輸株式会社と宇和島シロキ株式会社を昨年10月吸収合併し、また海外では昆山白木汽車零部件有限公司(中国)を昨年12月、ビナシロキ有限会社(ベトナム)を本年2月、それぞれ清算したためであります。

売 上

[4期連続で過去最高の売上。堅調な国内に加え、
好調な米国、アジアが貢献]

■当期の連結売上高につきましては、前期比で4.9%増の1,230億3百万円で57億4千2百万円の増収となり、4期連続で過去最高を更新しました。これは、得意先自動車メーカーの輸出好調に伴う国内生産の増加のほか、世界4極市場対応を視野に入れた生産・供給体制構築による受注拡大、およびモーターとECU(電子制御装置)を一体化した新型ウインドレギュレータなどの高付加価値化と競争力強化をはかった新製品の拡販などの効果が貢献したものであります。

■平成17年10月31日の中間決算発表時の1,190億円の予想に対して3.4%増であります。

■地域別では、国内は前期比2.6%増の948億3千6百万円で23億7千6百万円の増収と堅調に推移し、海外も現地生産拡大によって米国が前期比8.6%増の253億9千9百万円で20億1百万円の増収となり、アジアもトヨタ自動車の国際戦略車「IMV」の好調な販売に伴う増産と昨年4月より広州白木汽車零部件有限公司(中国・広州市)が生産を開始により、前期比97.5%増の27億6千7百万円で13億6千6百万円の大幅な増収となるなど、日本、米国、アジアの全地域で売上増となりました。

■地域別売上高■

(上段当期、下段前期)

・日本

948億3千6百万円

924億6千万円

(前期比2.6%増)

・米国

253億9千9百万円

233億9千8百万円

(前期比8.6%増)

・アジア

27億6千7百万円

14億1百万円

(前期比97.5%増)

・合計

1,230億3百万円

1,172億6千万円

(前期比4.9%増)

■得意先別売上高■

(上段当期、下段前期)

・トヨタG

(67.1%)

825億2千1百万円

781億5千7百万円

(5.6%増)

・売上高上位3社

①トヨタ自動車

(38.5%)

472億9千8百万円

479億6千2百万円

(1.4%減)

②トヨタ紡織

(15.9%)

196億1千万円

154億1百万円

(27.3%増)

③スズキ

(8.8%)

107億7千1百万円

112億1千7百万円

(4.0%減)

*社名横の()内は売上構成比率

■得意先別では、主力のトヨタグループ向けが好調に推移し、前期比5.6%増の825億2千1百万円で43億6千4百万円増加したほか、製品別では、新機構・新機能を採用したシート部品や新型ウインドレギュレータなどの新製品効果によってシートリクライナ・シートアジャスタが前期比8.2%、ウインドレギュレータも前期比7.8%と好調に増加しました。

国内売上

■国内につきましては、主力のシロキ工業が前期比で3.8%増の950億5千万円で34億7千6百万円の増収となりました。これは、得意先自動車メーカーの輸出が好調に推移し、輸出向け生産が増加したことや、これに加えて軽量化をはかったドア部品の「アルミドアサッシ」や、新機構・新機能を採用した「8ウェイパワーシート」「まったりシート」などのシート部品、新型ウインドレギュレータなどの新製品の拡販効果が寄与したためであります。得意先別では、トヨタグループ向けが好調で前期比3.0%増の574億7千1百万円で16億8千2百万円増加しました。

海外売上

■米国につきましては、米国生産拠点のSWマニュファクチャリング（テネシー州）が、前期比で9.0%増の255億2千2百万円で、21億1千7百万円の増収となり、過去最高の売上となりました。これは米国現地のトヨタ自動車向けが好調に推移したことによるものであります。

■アジアにつきましては、シロキタイランド（タイ・チョンブリ県）が前期比75.7%増の23億4千5百万円で10億1千万円の増収となりました。これは、現地トヨタ自動車の国際戦略車「IMV」の好調な販売に伴う生産の拡大により、大幅に売上を伸張したものであります。また当期より、昨年4月日産自動車の現地合弁会社の東風汽車向けに生産を開始した広州白木汽車零部件有限公司（中国・広州市）の売上4億6千8百万円が加わりました。

■主要製品別売上高■

（上段当期、下段前期）

①シートリクライナ・シートアジャスタ

（36.1%）

443億5千7百万円

410億1百万円

（8.2%増）

②ウインドレギュレータ

（28.8%）

353億8千6百万円

328億3千9百万円

（7.8%増）

③ドアサッシ

（17.5%）

215億2千1百万円

211億3百万円

（2.0%増）

* 製品名横の（）内は
売上構成比率

■会社別売上高■

（上段当期、下段前期）

①シロキ工業

950億5千万円

915億7千3百万円

（前期比3.8%増）

②SWM

255億2千2百万円

234億5百万円

（前期比9.0%増）

③シロキタイランド

23億4千5百万円

13億3千5百万円

（前期比75.7%増）

④広州白木汽車零部件

4億6千8百万円

—

（前期比 — ）

利益

[当期純利益は35.7%の増益]

■利益につきましては、グループをあげて生産性向上や徹底した総原価低減に取り組んでまいりましたが、営業利益は前期比33.5%減の20億1千9百万円で10億1千7百万円の減益となり、また経常利益は前期比10.8%減の29億8千4百万円で3億6千万円の減益となりました。しかし、当期純利益では35.7%増の12億2千1百万円で3億2千1百万円の増益とすることができました。

■主な増減益要因といたしましては、売上増加による増益効果や徹底した総原価低減活動による合理化効果が収益改善に寄与したものの、原材料価格高騰による影響や生産拡大に伴う生産準備費用の増加、海外投資にかかる償却負担増などにより、営業利益段階で10億1千7百万円の減益となりました。経常利益段階では為替差益8億1千6百万円などにより3億6千万円の減益にとどまりました。

■最終損益段階では構造改革の最終年度として子会社の清算など事業再編に伴う損失1億8千3百万円や、減損会計導入による影響7億4百万円などを特別損失として計上しましたが、退職給付費用にかかわる会計基準変更時差異の償却が前期で終了したことや、子会社事業の不採算部門撤退など構造改革を積極的に進めたことに伴う会計上の税負担軽減などにより、当期純利益は12億2千1百万円となり、前期比35.7%増の3億2千1百万円の増益となりました。

■平成17年10月31日の中間決算発表時の経常利益19億円の予想に対して57.1%の増益で、また当期純利益6億円の予想に対して103.5%の増益であります。

2、平成18年3月期の主な取り組み実績

[構造改革に目処、新たなスタートへの準備が完了]

■当社では世界4極市場への対応を万全なものとするべく、グローバル供給体制の加速、およびグローバルコスト競争力の構築とブランド力の定着に取り組むとともに、構造改革の最終年度として事業再編に取り組み、経営の効率化と企業体質の更なる強化をはかりました。この結果、永年取り組んで

■連結決算概要■

(上段当期、下段前期)

①売上高：

1,230億3百万円

1,172億6千万円

(前期比4.9%増)

②営業利益：

20億1千9百万円

30億3千7百万円

(前期比33.5%減)

③経常利益：

29億8千4百万円

33億4千4百万円

(前期比10.8%減)

④当期純利益：

12億2千1百万円

9億円

(前期比35.7%増)

●1株当たり当期純利益：

13円34銭

9円39銭

●海外売上高比率：

23.6%

21.7%

●設備投資：

69億2千万円

64億2千3百万円

(前期比7.7%増)

●減価償却費：

55億7千6百万円

53億4千7百万円

(前期比4.3%増)

■セグメント別営業利益■

(上段当期、下段前期)

・日本

19億9千5百万円

30億6千万円

(前期比34.8%減)

・米国

△1億4千1百万円

△1億8千5百万円

(前期比 -)

・アジア

△1億5千6百万円

△8千1百万円

(前期比 -)

・消去又は全社

3億2千2百万円

2億4千4百万円

(前期比31.9%増)

・合計

20億1千9百万円

30億3千7百万円

(前期比33.5%減)

きた構造改革に一応の目処をつけることができ、そしてまた、今後は原点に立ち戻り、自動車事業を中心に新たなスタートを切る準備ができました。実施した主な取り組みは次の通りであります。

■■グローバル展開の加速

■ 米 国

①現地富士重工業向けドアサッシ生産開始（05年4月）

- ・新規得意先向け生産・納入開始。

②ジョージア工場拡張、第3工場建設検討

- ・日系自動車メーカーの生産拡大に対応。

■ タ イ

①シロキタイランドがドアサッシの新規生産準備

■ 中 国

①広州白木自動車零部件操業開始（05年4月）

②広州白木自動車零部件がプレス工場新設（06年3月稼動）

- ・プレス部品の生産から組み立てまで現地で一貫生産。

③広州白木自動車零部件が生産能力増強

- ・広州トヨタ自動車向けドアサッシとモールディング、ウインドレギュレータの生産に対応。

■■国内事業強化

①九州シロキ第2工場新設（06年3月一部稼動開始）

- ・九州地区得意先の生産拡大に対応。
- ・協力会社を工場内に誘致し「サテライト方式」を導入。

■■構造改革推進

①昆山白木自動車零部件（中国）の清算（05年12月）

- ・中国事業の集約化による効率化

②ビナシロキ（ベトナム）の清算（06年2月）

- ・グループ経営の効率化推進

③子会社の3社合併（05年10月）

- ・シロキ商事によるシロキ精機、宇和島シロキの吸収合併し、グループ経営の効率化推進。

■■新製品開発

①新型ウインドレギュレータの生産（06年1月開始）

- ・グローバルサプライヤーとしてグローバル生産・供給
- #### ②「電子技術化推進室」新設（05年12月）
- ・高付加価値化と競争力強化をはかった製品開発強化

3、平成19年3月期連結業績予想について

■当社は、創立60周年を迎える本年を、更なる成長をはかるスタートの年として位置づけ、今一度原点に立ち戻ります。そして「世界No. 1の魅力ある製品づくり」に積極的に取り組み、国内では九州、海外では北米、中国、タイの各生産拠点の整備・強化を進め、世界同時立ち上げに対応できる生産技術を確保し、グローバルサプライヤーとして「確かな品質」と「高い技術」でグローバル生産・供給体制を万全なものとし、世界競争に総力をあげて勝ち抜いてまいります。

■特に今期は、グローバル化の本格化により、主要得意先の戦略車が世界ほぼ同時に立ち上がる時期となります。このグローバル化の進展や規模拡大が確実に収益に貢献するよう一層基盤整備に力を入れてまいります。

売 上

[新型ウインドレギュレータとアジアが貢献し、過去最高]

■今期の連結の業績予想につきましては、売上高は通期で前期比1.6%増の1,250億円を予想し、5期連続で過去最高の売上高更新を予想しております。これはモーターとECUが一体化した新型ウインドレギュレータの世界生産・供給が本格化するとともに、アジアにおいて生産能力を増強した中国の広州白木自動車零部件有限公司が広州トヨタ自動車の「カムリ」向けの生産を開始するなど本格的な生産に入り、またタイでは現地日産自動車向けのドアサッシの新規納入を開始するなどアジアの大幅な売上げがみこまれるからであります。

国内売上

■引き続き得意先自動車メーカーの輸出向けの生産は堅調に推移するとともに、新型車投入や積極的な販売活動により国内市場の活性化が期待されます。しかしながら一方で、ガソリン高などによる消費者心理の冷え込みが予想されるところから、国内市場は本格的な回復には至らないものと思われます。このため主力のシロキ工業の通期売上高は前期比1.0%増の960億円を予想しております。

■19年3月期連結予想■

(上段予想、下段前期実績)

①売上高:	1,250億円 1,230億3百万円 (前期比1.6%増)
②営業利益:	28億円 20億1千9百万円 (前期比38.7%増)
③経常利益:	23億円 29億8千4百万円 (前期比22.9%減)
④当期純利益:	10億円 12億2千1百万円 (前期比18.1%減)
●1株当たり当期純利益:	11円27銭 13円34銭

●海外売上高比率:	24.7% 23.6%
-----------	----------------

●設備投資:	82億3千4百万円 69億2千万円 (前期比19.0%増)
●減価償却費:	59億7千3百万円 55億7千6百万円 (前期比7.1%増)

■会社別売上高予想■

(上段予想、下段前期実績)

①シロキ工業	960億円 950億5千万円 (前期比1.0%増)
②SWM	252億円 255億2千2百万円 (前期比1.3%減)
③シロキタイランド	30億円 23億4千5百万円 (前期比28.0%増)
⑥広州白木自動車零部件	21億円 4億6千8百万円 (前期比4.5倍)

海外売上

■米国では、SWマニュファクチャリングの売上高を前期比1.3%減の252億円でほぼ横ばいを予想しております。

■アジアでは、タイのシロキタイランドが現地トヨタ自動車(株)の世界戦略車「IMV」向けの生産が引き続き好調に推移するとともに、現地日産自動車向けのドアサッシの納入を開始するため、前期比28.0%増の30億円を予想しております。また、昨年4月より操業を開始した中国の広州白木自動車部品が広州トヨタ自動車「カムリ」向けの生産開始などにより前期比4.5倍の21億円を予想しております。

利益

【営業利益は増益、経常利益と当期純利益は減益を予想】

■利益につきましては、引き続き増収効果がみこまれることに加え、海外子会社における収益好転や、構造改革による不採算事業の整理による利益貢献などもみこめることから営業利益は前期比38.7%増の28億円を予想しております。

■海外子会社の収益好転の要因は、米国は鋼材値上りの影響が収束し、合理化改善が進むとともに原価低減による収益改善がみこまれるからであります。アジアはタイが引き続き増収・増益が期待され、また広州白木自動車部品有限公司も生産本格化により採算規模に達することが予想されるからであります。

■経常利益では、円高が予想されることに加え、米国日系自動車メーカーの生産拡大に対応するジョージア工場拡張や第3工場建設などによる資金コストの増加、為替差益8億円の減少、支払利息2億5千万円の増加などにより、営業外損益の部で前年比15億円の悪化がみこまれ、経常利益は前年比22.9%減の23億円を予想しております。

■また、当期純利益は構造改革が前年終了したことにより特別損失が減少できることから、前年比18.1%減の10億円を予想しております。

■セグメント別営業利益予想

(上段当期予想、
下段前期実績)

・日本

20億円
19億9千5百万円
(前期比0.3%増)

・米国

4億円
△1億4千1百万円
(前期比 —)

・アジア

2億円
△1億5千6百万円
(前期比 —)

・消去又は全社

2億円
3億2千2百万円
(前期比37.9%減)

・合計

28億円
20億1千9百万円
(前期比38.7%増)

4、19年3月期の主な取り組みについて

■■グローバル展開の加速

■ 米 国

- ①現地日産自動車向けドアサッシ生産開始 (06年後半)
- ②ジョージア工場拡張、稼動開始 (07年1月)
- ③米国第3工場建設、稼動開始 (07年1月)

・日系自動車メーカーの生産拡大に対応

■ タ イ

- ①シロキタイランドがドアサッシの新規生産 (06年半ば)

・現地日産自動車向け納入開始、ASEAN地区での生産強化。

■ 中 国

- ①広州白木自動車零部件の生産拡大

・広州トヨタ自動車向け生産開始。

■■国内事業強化

- ①シロキ商事の会社分割 (06年7月)

・シロキクリエイイトサービス設立

- ②九州シロキ第2工場本格稼動

・九州地区得意先の生産拡大に対応。

以 上

■ この件のお問い合わせは：

シロキ工業株式会社 (0533) 84-4691

参与経理部長

大石

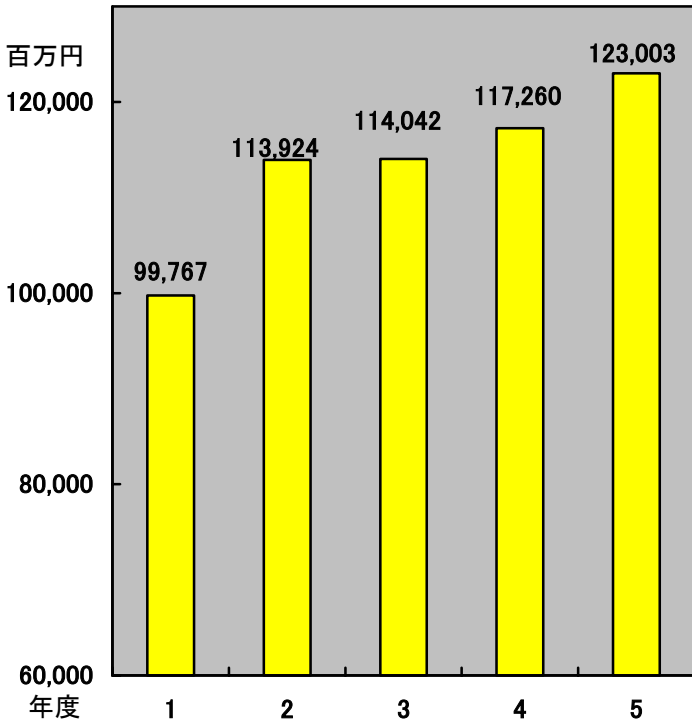
総務部広報担当

眞野 まで

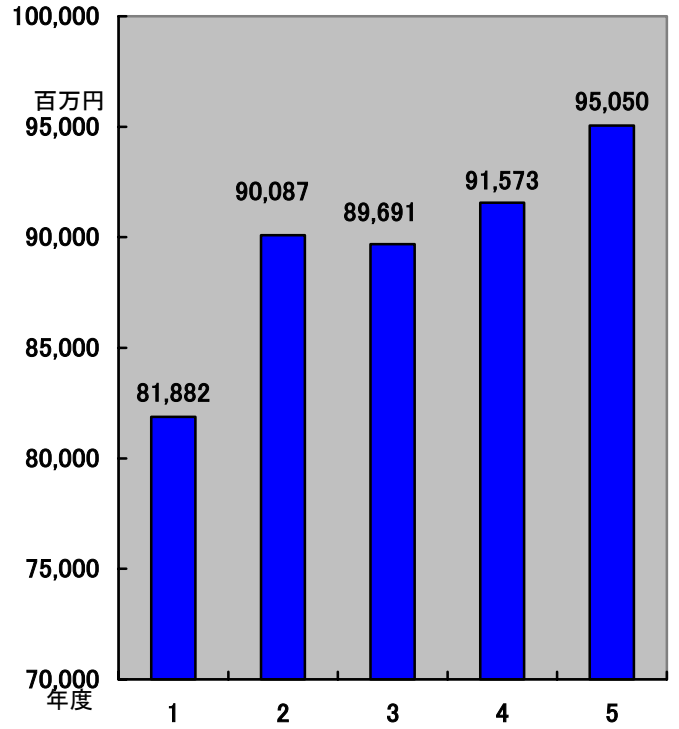
業績推移

シロキ工業株式会社

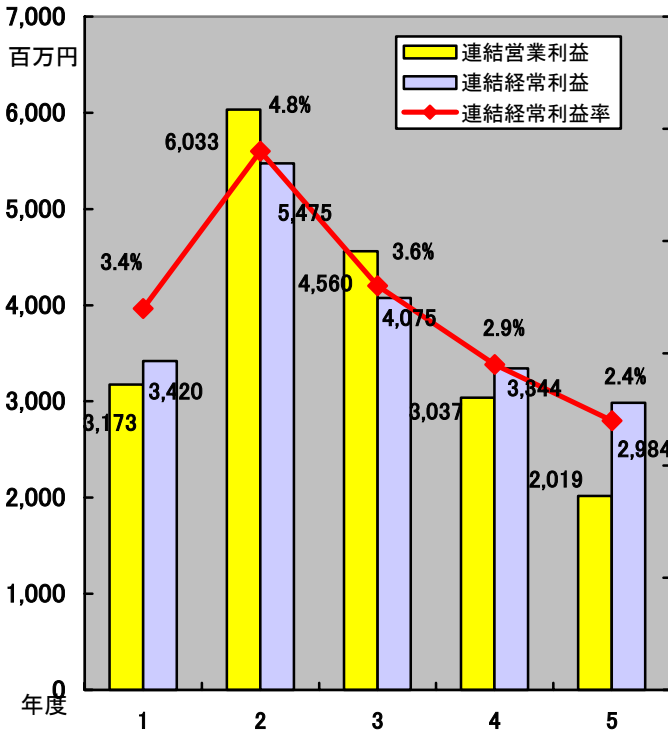
■ 連結売上高推移



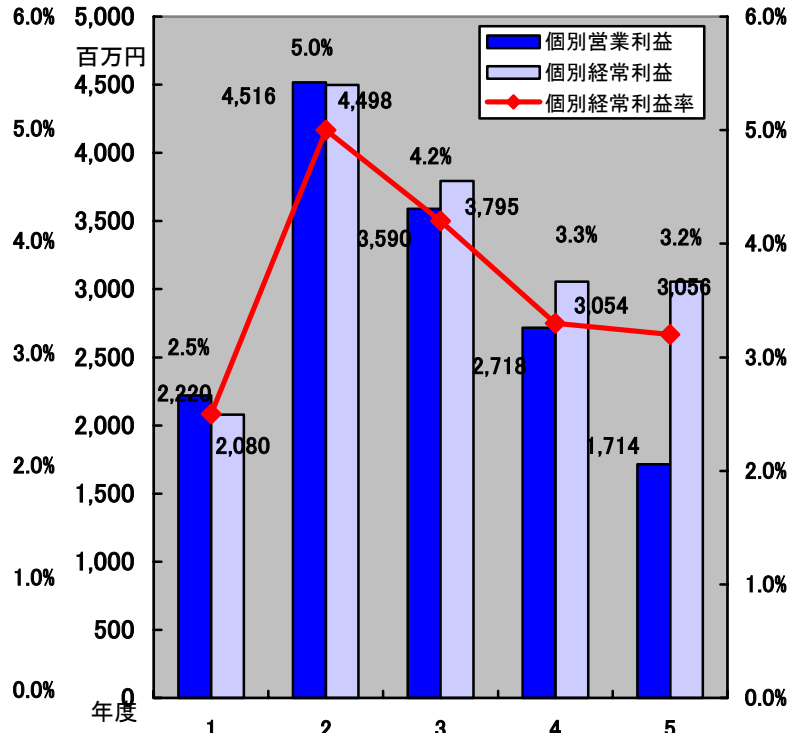
■ 個別売上高推移



■ 連結利益推移



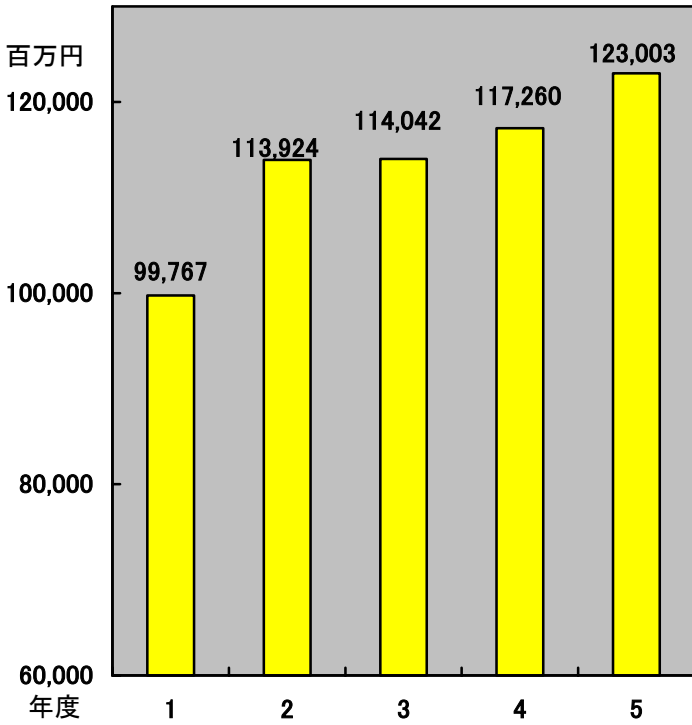
■ 個別利益推移



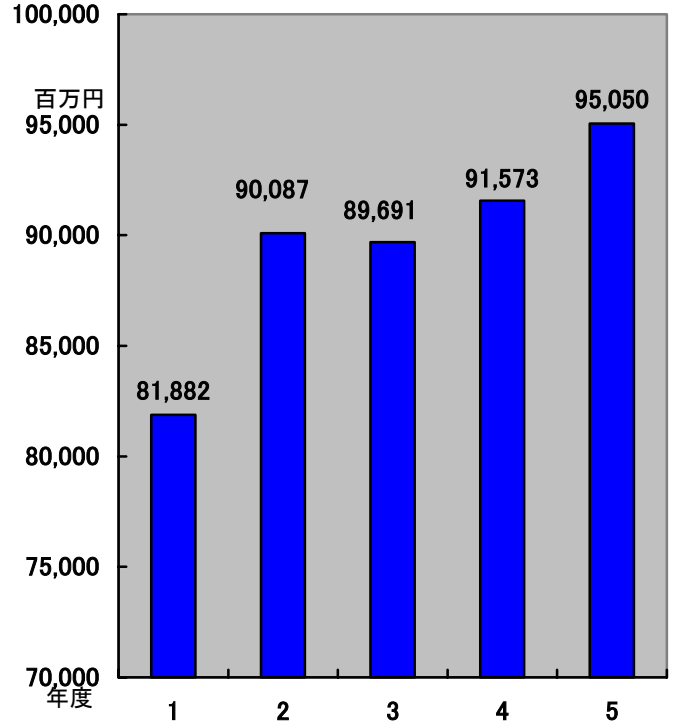
業績推移

シロキ工業株式会社

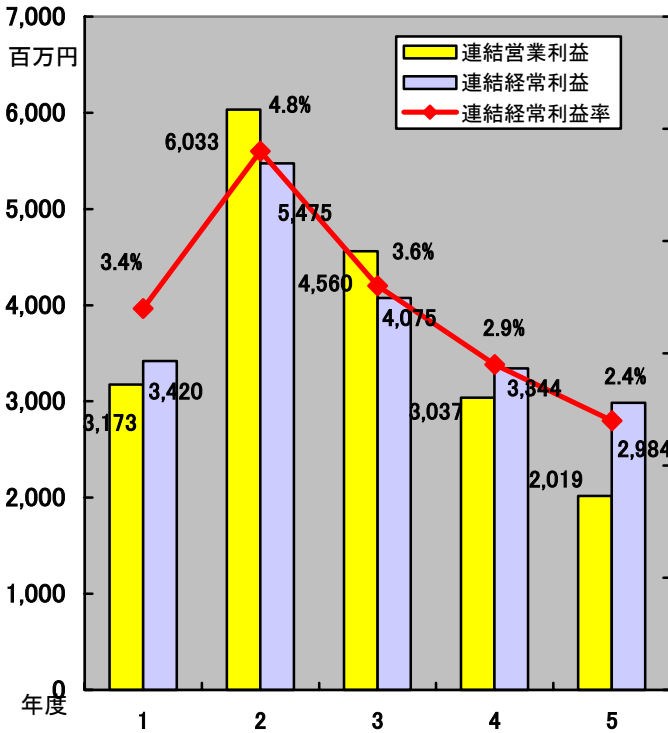
■ 連結売上高推移



■ 個別売上高推移



■ 連結利益推移



■ 個別利益推移

